

男女の装いは、どのように変化を遂げてきたのか。

常に時代に寄り添いながら進化を続け、ときに改革や変化を先導してきたファッションの歴史。その変遷はまさに、近現代のジェンダー観を映し出す鏡といえる。



photo: ALO

1600年代 前半

甲冑を脱いだらこそぞって脚線美を誇る、リボンの騎士たち。

動乱が続いた17世紀のメンズファッションは、レースにフリル、リボンに羽根と豪華絢爛。足元はハイヒールとタイツで脚線美を強調し、優美なエレガンスが誇示された。今日ではフェミニティの象徴とされている要素も、もともとは男性らしさを表現する要素として用いられていた。



photo: ALO

1600年代 後半

英国王による衣服改革宣言で、メンズスーツの先祖が誕生。

1666年に英国王チャールズ2世が衣服改革宣言を発し、ヴェストが導入され男性用スリーピーススーツの祖先が誕生。とはいえ、長髪のかつら、地パン、タイツにハイヒールという脚線美ルックは変わらず、現在のスーツのイメージとはまだ似ても似つかない。

中野香織 Kaori Nakano 服飾史家

解説 ●男女ファッション史から最新モード事情まで執筆・講演。新聞・雑誌・ウェブなど7媒体で連載中。昭和女子大学客員教授、企業の顧問を務める。著書に「イノベーター」で読む「パレルム全史」他多数。

優美さと贅を競い合う、宮廷社会。

1800年代 前半

奇をてらわず控えめ、ダンディズムの思想が男の美学を確立した。

今日に続くメンズファッションの基礎は、ダンディズムの元祖と知られるジョージ・ブランメルによって確立された。それまでの豪華絢爛な装いから一転、ダークなアウトターに長ズボンと、奇をてらわない控えめな装いに徹することが、男の美学として浸透した。



photo: ALO

1700年代 前半

フランス革命前夜にピークを迎えた、豪華絢爛な宮廷貴族趣味。

豪華を極めたロココの時代には男性も顔に化粧を施し、サイドに数段のカルをつかったカツラには小麦粉を含む髪粉をたっぷりふりかけて真っ白に。シャツにはフリルが過剰なまでに施され、メンズファッションの豪華絢爛ぶりはこの時代にピークを迎える。



photo: ALO



photo: AFP/LO



photo: AFP/LO

1960年代 後半

女性がマスキュリンに傾う、ジェンダー新時代の到来。

女性服に男性服の要素を持ち込んだココ・シャネルの手法に倣い、イヴ・サンローランもマスキュリンなパンツスタイルを立て続けにリリース。なかでも男性の礼装からインスパイアされたスモーキングスーツや、持鞆服のようなサファリルックは、新時代の到来を予感させた。



photo: Mary Evans Picture Library/AFLO

1916年

現代ファッション史における、ジェンダー越境論の始祖。

ブランメル以降は装いの性差が顕著な時代が続いたが、女性服に伸縮性の高いジャージー素材や、傷や汚れに強いツイード、二股のパンツルックなど、利便性の高い男性服の要素を持ち込むことで、女性の社会進出を促したのがガブリエル・ココ・シャネルだ。

1960年代

若者文化を創出した、少女たちによるミニスカ革命。

シャネルが後押しした女性の社会進出に、さらにブーストをかけたのが1960年代のマリー・クワント。ミニスカートと、セットが楽なショートヘアー、さらにウォータールーフの mascara によって、気軽に外泊できるようになった女性たちは、活動の幅を広げ時代のオピニオンリーダーとなる。



photo: AFLO



photo: AFLO

女性たちの社会進出により、性差は薄れる。



1990年代

アメリカから届いた、
ユニセックスという
フラットなスタイル

ファッションにおけるジェンダー表現が多様化し、一般層もそれを自然に楽しめるようになった90年代、再度訪れたのがユニセックスのムードだ。カルバン・クラインは男女にジーンズスタイルを定着させ、フレグランスもユニセックスで展開。日本ではビタTを着たフェミ男が登場。

多様化し
発展していく、
性の表現。



1970年代

後ろから見たら区別がつかないほど、
ファッションの性差はフラットに。

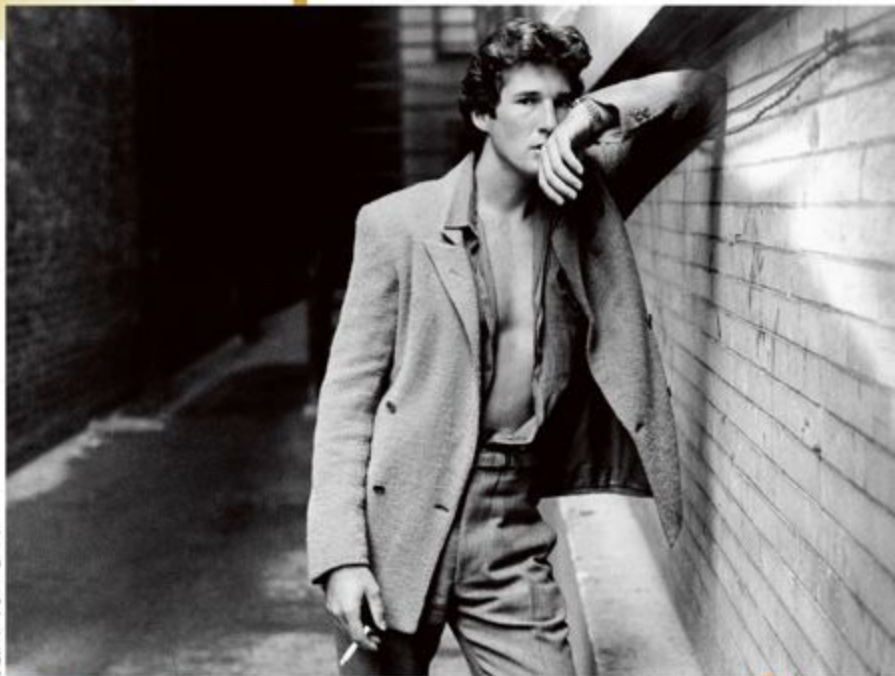
年々ファッションにおける性差が薄まり、ひとつのピークを迎えたのが70年代。男女がまったく同じスタイルと思想を共有するヒッピー文化が、ユニセックスの極致を象徴した。他にも映画『アニー・ホール』でメンズルックに身を包んだダイアン・キートンが話題になるなど、一般層にも性差越境ムードが広がる。



1982年

ジェンダーのステレオタイプを、
破壊した日本人デザイナー

パリコレクションに進出したコム デ ギャルソン(写真)とヨウジヤマモトは、それまでヨーロッパが牽引してきたモードの価値観を覆すコレクションを発表し、賛否両論の一大センセーションを巻き起こした。日本には全身黒に身を包んだ中性的な“カラス族”が登場。



1980年代

男性に色香を、女性に權威を、
性が交錯するニュースタンダード

ブランメル以降構築的でストイックな進化を続けてきたメンズスーツに、脱構築的なアンコンスーツによって官能的な色気をもち込んだのがジョルジオ・アルマーニだ。またマスキュリンな女性向けテラードルックは、この時代に増えた女性管理職に支持された。



2010年代

ダイバーシティなムードが、モードのメインストリームに。

ブランドキャンペーンやコレクションのランウェイに、トランスジェンダーやふくよかな体型のモデルたちが登場し、美の多様性がさらに発展。LGBTの社会的立場改善を目指す、世界的な潮流と同調した。写真はトランスジェンダーモデルのアンドレア・ペジック。

photo: AFLO



photo: AFLO



性の壁が
打ち壊された、
新しい時代。

photo: AFLO



2020年

セレブの間で一気に流行する、ジェンダーレスなメンズパール

ミケレに賛同する数多くのセレブのなかでも、一般層に対するハリー・スタイルズの訴求力は絶大。彼はこれまで女性の物とされていたパールのネックレスを、普段から愛用中。メンズパールは、今年のヒットアイテムだ。

2015年

揺れ動く“ジェンダー・フルイド”が、新時代のニュースタンド

ジェンダーレスなコレクションを打ち出したグッチを率いるアレックスandro・ミケレ。彼の登場によって、社会全体でジェンダーのとらえ方が大きく変わったといわれる。その日の気分で男女の間を揺れ動く、“ジェンダー・フルイド”の概念を定義させる。

現代スカート男子遍歴 Men in Skirt

photo: AFLO



もはや“個性派”ではない、現代のスカート男子たち。

80年代には大きな物議を呼んだメンズスカートだが、いまでは多くのブランドが取り入れている一般的なアイテムに。そのまま時代のジェンダー観が見て取れる。写真はジル・サンダーの2019年春夏コレクション。

photo: Reuters/AFLO



固定概念の破壊は、バンク女王のお家芸。

ヴィヴィアン・ウエストウッドも古くからアンドロジナスな表現を続けるデザイナーのひとり。コレクションでは、毎回スカートやドレスに身を包んだ男性モデルが登場する。

photo: AFLO



ジェンダー観に挑み続けた、スカート男子の元祖。

アンドロジナス(両性具有的)なファッション表現の先駆けとして、ジャン・ポール・ゴルチエが今日のジェンダー観に与えた影響は計り知れない。85年に発表したメンズ向けスカートは、世界中で物議を醸した。